

プレキャストプレストレスコンクリート

建築部材 製造管理基準

2002年7月



社団法人
プレストレス・コンクリート建設業協会

まえがき

我国にプレストレスコンクリート技術が導入されてから間もなく半世紀が過ぎようとしております。この間、プレキャストプレストレスコンクリートの建築物は浜松町のホーム上屋の建設にはじまり、それぞれの時代の要求に応じた、多種多様な建築物に採用され今日に至っています。

その間、プレストレスコンクリート技術は年々進歩・向上を遂げ、告示の改定も数回に及び一般的構法として普及し、多くの建築技術者にその特性を認められてきました。

しかしながら、プレキャストプレストレスコンクリート建築部材の製造に関しては従来からまとまった基準がなく、プレストレスコンクリートの施工に関しては JASS5（場所打ちを主体としたもの）、プレキャストコンクリート製品では JASS10（RCプレキャスト）や JIS（土木製品を主体とする）等、関連する諸基準を参考にした製作要領書をその都度作成して対応してきたのが現状であります。

この度の建築規準法の改定では、建築用プレキャストプレストレスコンクリート製品も規格発注から性能発注に移行することとなり、今まで以上に品質が重視されることとなります。

このような背景をもとに当協会建築部会では、発注者・コンサルタント・元請業者の皆様が納得してご採用していただける製品が提供できる製造基準を作成し、当協会会員各社の部材品質の均一化と、より高度な製品提供へのステップアップを目的とした建築部材製造基準を作成いたしました。

内容としては、品質管理方法、使用材料、製作要領、検査・試験等と記載しておりますが、告示 1320 号の改定を目前に急ぎとりまとめておりますため、改定後は再度内容の見なおしをいたします。

当施工管理基準が広く利用され、プレキャストプレストレスコンクリート建築部材の品質の向上と、使用範囲の拡大につながることを念願いたします。

平成 14 年 7 月

社団法人 プレストレスト・コンクリート建設業協会
建築部会

目 次

1. 総 則	1
1.1 目 的	1
1.2 適用範囲	1
1.3 品質管理	1
1.4 製造設備	1
1.5 材 料	1
1.6 検査および試験	1
1.7 変更疑義	2
2. 使用材料	2
2.1 セメント	2
2.2 練混ぜ水	2
2.3 骨 材	2
2.4 混和材料	2
2.5 鋼 材	2
2.6 定着具および接続具	2
2.7 シ 一 ス	3
2.8 埋込み部品	3
2.9 剥離剤	3
2.10 グラウト	3
3. 製造要領	3
3.1 コンクリートの調合と品質	3
3.2 部材製造用型枠	5
3.3 鉄筋の加工および組立て	5
3.4 鉄筋および埋込み部品設置	6
3.5 PC鋼材の配置	6
3.6 プレテンション部材のPC鋼材の緊張	7
3.7 コンクリートの打込み	7
3.8 コンクリート面仕上げ	8
3.9 養 生	8
3.10 プレストレスの導入および脱型	9
3.11 グラウト	11
3.12 PC鋼材の端末処理	11
4. 検査および試験	11
4.1 製造材料および埋込み部品の受け入れ検査	15

4.2	緊張装置の管理、検査	19
4.3	コンクリートの試験	20
4.4	コンクリートの打設前検査（工程内検査）	21
4.5	グラウトの試験	22
4.6	製品規格検査	23
5.	補修と材料	24
5.1	総則	24
5.2	廃棄すべき部材	24
5.3	補修を必要とする部材	24
5.4	補修を必要としない部材	24
6.	製品の貯蔵	24
6.1	一般事項	24
6.2	貯蔵場所	24
6.3	貯蔵方法	25
6.4	貯蔵管理	25
7.	出荷	27
7.1	一般事項	27
7.2	出荷時検査	27
7.3	積み込み	27
7.4	運搬経路	27
7.5	運搬	27
7.6	待機	28
7.7	引き渡し検査	28
7.8	荷卸し	28
8.	報告書	28
8.1	一般事項	28
8.2	報告書類	28
8.3	報告書の保存	28
(添付資料)		29
4章 フライアッシュ、コンクリート用膨張材、高炉スラグ微粉末、シリカフューム、 コンクリート用化学混和剤、コンクリート用化学混和剤の塩化物イオン量		
6章 運搬関連法規一覧		
8章 原材料検査報告書、製品検査報告書		